



年の瀬を迎え、3年生は就職活動がスタート、2年生は来年度のゼミ選択の時期です。法学類月報第3号では、レーゲンスブルク大学(ドイツ)でのドイツ語サマーコースに参加した学生の体験記、山本竜大准教授の紹介、報告会のお知らせをお届けします。



## レーゲンスブルク大学ドイツ語サマーコースに参加して

将来ドイツ語にかかわる仕事をしたくて今回の語学研修に参加しましたが、過去に留学経験もなく、行く前は不安が募る一方で、自分の語学力が一番の心配の種でした。しかし実際にドイツで過ごしてみても、最初の方は色々と挫折もしましたが、約3週間の研修の中で、多くの経験と自信を得ることができました。

この研修ではドイツ人学生だけでなく、色々な国の学生とも交流する機会がありました。彼らに対しては **Hören** (聞くこと) に関してはかなり差を感じたのですが、**Sprechen** (話すこと) に関しては私たちとそれほど変わらないレベルだと感じ、勇気を出して積極的に話すようになりました。彼らは多少の語彙の間違いは気にせず、とにかく相手を理解しよう、自分を知ってもらおうというのがむし

やらかな姿勢があり、それに感化されたのかもかもしれません。語学の研修とはいえ、最も求められるのはコミュニケーション能力なのだということに気づかされ、そのことよってますますドイツ語を学ぶ意欲が高まりました。研修の終わりごろには、一番心配だった語学力への不安はさほど感じなくなりました。

研修から帰国した後、周りの人によく「変わったな」と言われました。同じ研修に参加した仲間たちを見ても、失敗を恐れない、自分をアピールする姿勢が見られるようになったと思います。

皆さんにも、語学研修などを通じて海外に行き、色々な人とコミュニケーションを取ってみることをお勧めします。きっといろいろなことに対する価値観が変わると思います。

法学類3年 田上智也

### ◆連載◆ 法学類の先生

### 第2回 山本竜大先生

「やさしく自己紹介せよ」との編集方針にのっとり、簡単にその役割を果たしたいと思います。わたしは、千葉県生まれですが、既にうん十年以上阪神タイガースを応援し、粉食が大好きな人です。わたしにはさらに二つの特徴があります。一つは新しいモノ好きでもあるということです。子供のころは電器店で興味のある製品のカタログをメーカ

一ごとに集め、こどもながらにさまざまな視点からそれらを比較していました。もう一つは「テレビっこ」であったこと。ある意味、親よりも世の中の仕組みに関する知識をテレビから得て、学習したかもしれません。そのため、わたしにとって、まさにテレビは家庭教師であり、「知識の泉」という存在です。ただ、そうした環境で育ったからこそ、現在の専攻である政治コミュニケーション論、政治情報論に進むべくして進んだかは、正直わかりません。

今日インターネット技術は、過去の専用機をコンパクトに統合させ、みなさん（の生活）と世界をつなげています。そこで、みなさんに考えてほしいことは、情報というものは受信・享受する側よりも、発信・制作、流通させる側の方が、あらゆる意味において世の中をリードし、財を占め、社会的責任も負う可能性が高まることです。現代の情報社会において、OB/OGを含め金沢大学の大学生が日々情報やデータの本質とそこに秘められるあらゆる可能性を見極められる人材となり、世界的に活躍してほしい。これが、私のささやかな希望であり与えられた社会的役割の一つだと思っています。

政治コミュニケーション論担当 山本竜大

## お知らせ

### 研究報告会「台湾における生活妨害の民事的救済」開催

2014年1月10日（金）14時45分より、人社2号館（旧法経棟）3階第1会議室にて、台湾・政治大学法学院の陳洸岳先生をお招きして、「台湾における生活妨害の民事的救済」という論題のご報告をしていただくこととなりました。この報告会は、法学類の前身である法学部時代の2005年から続いている、台湾・政治大学法学院との交流の一環として企画するものです。

陳先生は東京大学大学院法学政治学研究科で修士号と博士号を取得された方で、日本語も非常に堪能です。ご講演の内容は、日常生活で発生する騒音、悪臭、光線等による「生活妨害」に関して、1999年の台湾民法の改正前後で、この「生活妨害」紛争を解決するための法律構成がどのように変わったのか、また実際の事例や判決などについて紹介と検討がなされる予定です。身近な問題ですので、日本における同様の紛争への対処法を考える際にも参考になるに違いありません。なお、この報告会は民事法研究会としての開催ですが、今回は学内外を問わず、すべての方に開放します。とくに、現役法学類生の皆さんの参加を歓迎します。



- 法学類の学生、卒業生、教員に関係するイベント等の情報を、ぜひお寄せください。
- 関係者の皆様のご寄稿を歓迎します。採用された方には、法学類グッズを進呈します。
- 本誌のバックナンバーは、法学類 HP (<http://www.law.kanazawa-u.ac.jp/home/geppo>) に掲載していますのでご覧ください。  
また、メールでの定期配信(無料)をご希望の方は、金沢大学人間社会系事務部学生課 法・経済学務係 ([n-hkgaku@adm.kanazawa-u.ac.jp](mailto:n-hkgaku@adm.kanazawa-u.ac.jp)) までお申し込みください。
- お読みになってのご意見ご感想は、上記メールアドレスまでお寄せください。